

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170200455		
法人名	医療法人社団 豊生会		
事業所名	グループホームすぎの子		
所在地	札幌市東区東苗穂3条1丁目13番29号		
自己評価作成日	平成22年10月26日	評価結果市町村受理日	平成22年12月3日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.system-kaijogijoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170200455&SCD=320
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・法人では「地域に根ざした医療と福祉を創造する」を理念に他部署、他施設と協力し合いながら利用者を支えあっている。また、グループホームでは季節感のある行事や外出行事等を取り入れ、楽しみのある生活が送れるように、「ゆっくり、一緒に、楽しく、豊かに」日々、ケアに取り組んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成22年11月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1)事業所の環境は札幌市郊外の閑静な住宅街で、病院、商店が近在し、利便性に恵まれている。建物は鉄筋3階建ての3ユニットで、内部は明るく、安全と住み心地の良さに配慮した造りになっており、スプリンクラーが設置されている。2)運営母体は同地区の医療法人で、母体の総合病院を中心に、医療・福祉の関連事業を展開しており、運営、研修、人事、医療面での連携・協力がなされ、関連医療機関とは24時間連絡がとれる体制である。3)介護体制については管理者はじめ職員は法人内外の研修に参加し日々研鑽し、質の高い介護を実践している。理念を目標に、利用者本位の生活を支援し、利用者の表情は明るい。4)運営推進会議は定期的開催され、記録しており、特に防災対策については関係者多数参加し、消防署指導のもと火災予防について学習し、実際の避難訓練に繋がっている。5)地域との関係については、町内会に加入し行事に参加する他、役員を引き受け、町内の清掃等に協力し、避難訓練には町内の人々の協力を得ている。玄関横に掲示板を設置し、医療、福祉の情報をタイムリーに地域に発信している。実習生・ボランティアの受け入れも盛んで、地域に根ざした医療、介護、福祉の拠点としての役割を担っている。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念「ゆっくり、一緒に、楽しく、豊かに」をモットーに、半年毎に目標を掲げ、日々、個々に合わせたケアを行なっている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を策定し玄関、各ユニット、スタッフルームに掲示して互いに共有しサービスの実施に努めている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃から散歩や地域のお祭りや清掃、資源回収などの地域行事に参加することで交流を図っている。	町内会に加入し行事に参加している。清掃やゴミステーション設置に協力し、玄関横の掲示板にはAEDの利用や医療・福祉の情報を利用者の作品と共に掲示し地域に発信している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者が作成した作品を掲示板に掲示したり、法人内では病院にて健康教室や老健にてわくわく広場を開催している。認知症や介護保険についての講習会を行っており地域の方々と学ぶ機会をもっている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を行い、御家族や町内会長、地域包括支援センター職員、管理者等が参加し、行事予定報告や利用者の状況、防災計画等の意見交換や報告を行い、そこで得られた意見をサービス向上に活かす様にしている。	2カ月ごとに地域や行政関係者、家族等の参加のもと会議を開催し、事業所運営、行事、災害対策などについて話し合い、議事録を提出している。会議で討議された内容は運営に反映させている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は管理者連絡会議に参加して意見交換等を行っている。また、市から発信されている研修に参加している。	行政とは日頃から連絡や情報交換を行っており、管理者は市や区主催の管理者連絡会議や研修会に参加して意見交換し協力関係を築いている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内外の勉強会や研修会に参加しスタッフ全員で学ぶ機会を設け、理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	マニュアルを整備し、身体拘束に関する内外の研修会に参加し、職員の知識と認識の共有を図っている。玄関は施錠せず、利用者をさりげなく見守りながら、安全で自由な雰囲気でのケアを実施している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内外の勉強会や研修会に参加しスタッフ全員で学ぶ機会を設け、現場で防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、利用されている利用者はいないが、今年度中に勉強会を予定している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が文書や口頭で御家族に十分理解、納得ができるまで説明を行った上で契約等をしている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者が窓口となり苦情や要望を聞いて解決に努めている。フロアには意見箱を設置しており、日頃から利用者や家族の意見や要望は聞くように努めている。	日頃から家族来所時には話を聴くように努め、運営推進会議では家族の提案や要望を聞き、運営に反映させている。意見箱の設置、外部への苦情受付機関を案内している。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスやリーダー会議や運営会議、勉強会等を行ない、意見や提案を聞く機会を設け反映させている。	代表者や管理者はカンファレンスやリーダー会議、運営会議等で職員の意見や提案を聞く機会があり、職員の意見は運営に反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を取り入れ、各職員が目標を立て、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の勉強会を実施する他、法人内外の研修案内を随時掲示しており、希望者は参加できるようにしている。また、研修参加者は報告書を提出したり、報告会を行なうことで全スタッフに伝達できるようにしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他部署との勉強会や研修会、フォーラムや交流会を実施し、その中で交流を行いサービスの質の向上に向けた取り組みを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、本人や家族との面談を行い、本人が困っていること、不安なことや要望に耳を傾け、現状を把握するように努めている。又、現状を職員間で把握することで本人の安心を確保するための関係性づくりに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用開始前に、管理者や職員が家族の抱える問題や意向を確認し、ケアの方向性を話し合い理解や協力を依頼するなど関係づくりに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	意向を伺い、以前利用していた事業所もあれば情報を頂き、検討を行い支援の仕方や内容を見極め対応している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「ゆっくり、一緒に、楽しく、豊かに」をホームのモットーとし本人から知恵を頂き生活の中で活かし、よりよい暮らしができるような関係を築くように努めている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や行事への参加、運営推進会議への参加等を通じて、家族と職員がお互いに意見を伝え合い本人を支えていけるような関係を築くように努めている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親戚だけでなく知人や友人等の馴染みの人が来訪し、居室やフロアで過ごしていただけるよう環境を作ったり、家族の意向もあれば外出や外泊ができるような支援に努めている。	生活暦を把握し大切な友人や家族との交流が続けられるよう支援している。また利用者への訪問者には事業所内でゆっくり寛げるよう配慮し、家族の訪問頻度は高い。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中でのお手伝いの場面や、行事やレクリエーションを通じて利用者同士が関わりあえる環境作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて関係性を大切にしながら情報提供や相談等の支援に努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者1人1人の過去の経験を生かしカンファレンスで話し合い希望、意向の把握に努めている。日々の生活の中でも利用者の話に耳を傾けながらその人らしい生活ができるように意向の把握に努めている。	センター方式を利用したアセスメントを行っており、日頃の言動や個人記録、家族の情報などから一人ひとりの生活状態や意向、希望の把握に努め、本人の立場にたって考えるよう努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、関係者から聞き取りを行ったり、情報提供書等により、生活暦やなじみの暮らし方や生活環境等の把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者1人1人が穏やかな生活を送ることができるように日々の暮らしの中で、できること・できないことの現状の把握に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らせるために、月1回のケアカンファレンスにより、ケアプランの見直しを行なっている。必要に応じプランの追加や変更を行っている。また、家族の来訪時に意向や意見、アイデアなども聞いて取り入れている。	本人、家族の意向を考慮しカンファレンスで担当者、計画作成者、関係者を含めて話し合い、相互の意向や意見を受け止めて介護計画を作成している。定期的な見直しの他、状況変化時には現状に即して作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活全般や医療面での記録、家族との交流など全てを記録し職員間で情報を共有しながら、日々のケアの実践や介護計画見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホーム内だけではなく、今までの関係性が途切れないように法人内の施設を訪問し交流する場を設けている。また、ショートステイも受け入れている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの公園に散歩に行き、近隣の方達や園児達との交流を行っている。また、敬老会等の行事の際に歌や出し物等のボランティアの方をお招きしたり、町内会の夏祭りに参加したり、地域の文化祭にも出掛けたりしている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向に沿い、かかりつけ医を決定し、定期的な往診や受診が行えるように支援している。	本人、家族の希望する医療機関への連絡や受診については家族と共に支援している。提携医による月2回の往診では日常健康管理がなされ24時間連絡がつく体制である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中での健康状態の気づきや情報を、週1回の訪問看護師に報告や相談をし、健康管理を行っている。			
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、できるだけ面会に行き、情報提供・情報交換を行っている。			
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の段階で終末期のあり方の意向を確認し、状態が悪化してきた際には家族や主治医と話し合いを行っている。	「重度化についての指針」については早期に文書で家族の意向を確認している。変化が生じた場合は家族、医師、看護師、関係者と話し合い方針を共有し、できるだけの支援をしている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	かかりつけ医や消防署の方を招いての勉強会でAEDや人工呼吸等の初期対応の訓練を行っている。			
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、そのうち1回は地域住民参加の避難訓練を実施している。運営推進会議の中でも、避難経路の確認や町内会にも協力を要請している。	消防署協力のもと定期的に避難訓練を実施し、地域住民との協力体制を築いている。スプリンクラーを設置し非常階段入り口は防火扉があり、備蓄食・水の用意もある。	避難訓練では消火器具の取り扱い、緊急連絡や避難経路の確認を実施しているが、防火については日々点検し、今後とも地域住民との協力体制が維持できるように期待したい。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者1人1人の人格を尊重し、本人のプライドや羞恥心に配慮しながらプライバシーを損ねないように声かけや対応を行っている。記録についてもインシナルでの記載や個人記録等の個人情報については事務所で厳重に管理している。	職員は利用者の尊厳を大切にし言動に配慮してケアしている。個人情報記載の記録物の管理はプライバシーを尊重して細心の注意を払っている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の言葉を傾聴し、自己決定できるように働きかけている。意思決定の困難な利用者に関しては、過去の生活の記録の中から読み取ったり、表情や仕草から見極め、自己決定できるように働きかけている。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に決まりはなく日々自由に暮らしている。利用者の身体機能や日々の状況を把握し個々のペースにあわせ、散歩、買い物、入浴など希望に沿い、個別性のある支援をしている。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で衣類を着る事、選ぶ事が困難な方には職員がその人らしい身だしなみに配慮して支援している。ヘアカットも本人や家族の意向を確認し店を選んでいる。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できることを楽しめる範囲でその人に合わせ、食事の盛り付けや食器・お盆拭き等を協力し合い行って頂いている。	献立は利用者の好みを取り入れ、個々の力に応じて準備や下ごしらえに協力している。職員と共に食卓を囲む食事は楽しみとなっている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の嗜好や摂取状況に合わせて固形化やトミ、ミキサー食等形状を変えて提供している。透析者の決められた水分摂取量の管理や水分摂取量の少ない個人へゼリー等で代替し1人1人に合わせた支援をしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各個人への歯磨きの声かけ、自力で行えない方には口腔ケアを行なっている。口腔内の状況に応じ必要な方は定期的な歯科クリニックの往診を受けている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合わせた適切な時間を考慮し、トイレの声かけ誘導、パット交換を行っている。また、尿意や便意を訴えることができない方に対しての排泄介助は表情や仕草、言動を観察しながら職員が協力し合い介助を行っている。	利用者一人ひとりの排泄記録や動作、表情等により排泄パターンを把握し、個々に応じてさりげなくトイレに誘導し排泄の自立に向けて支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳等の飲食物の工夫を行ったり、排便状況を個別に把握し、排便の際はプライバシーを尊重した上で必ず確認し、必要時には下剤も使用しながら個々に合わせた便秘予防に取り組んでいる。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間は特に決まっていらない。希望される方に対しては対応をしている。また、自分から希望されない方に対しては声かけを行い入浴していただいている。	一人ひとりの希望や状況によりいつでも入浴できるよう準備している。声かけや清潔・安全に配慮して、楽しみながらゆっくり入浴できるよう支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内温度、寝具の衛生にも気を使い安眠できるように支援している。照明の点灯有無にも配慮している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当医や看護師の指示に基づき、服薬の支援を行っている。副作用など気になる症状があれば職員間で共有し、変化の確認に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の状況に合わせて、家事手伝いの役割の提供、テーブルゲームや書き物、外出等の提供を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1年に数回、家族の協力のもと家族参加の外出行事を行っている。その他、個人外出も行い気分転換や非日常を提供している。	日常的には近隣散策などで戸外に出ているが、外食、買い物など利用者の希望に応じて「個別外出」を支援している。行事としては季節に合わせて郊外の百合が原公園への遠足や水族館、雪祭り見物等がある。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を所持している方がほとんどいない状態である。希望があれば買い物等付き添いを行っているが今現在はそのような方はいない。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人からの電話や手紙等必要な場合はやり取りができるように説明や介助を行っている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室の表札、トイレ表示のプレートは大きくわかりやすいものを使用している。誕生会や年間行事のポスターや室内装飾、花やグリーンをフロア内に飾り気持ちよく居心地のよい環境を作り提供している。	玄関には著名な作者の童姿の日本人形が飾られている。広いリビングの窓から外の景色が眺められ、振り子つきの柱時計がゆっくり時を刻んでいる。季節の花や置物を飾り室内は居心地が良く、温度、湿度も適切で騒音はない。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者それぞれにおいて他者との関わりを配慮した上で席を決めているが、スペース毎に大小のテーブルを配置し、その時々によっての利用が可能であり、フロアのあちらこちらに椅子を配置している。体を横たえることもできるソファも置いている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの布団やベット、タンス等は入居の時点で持参していただくよう家族に説明を行っている。また、配置においても使いやすい安全であるよう検討し、本人、家族と相談し決定している。	居室には馴染みの家具や生活用品を持ち込み、家族写真や趣味の作品を飾っている。希望によりテレビや冷蔵庫の設置も可能で気持ち良く過ごせるよう配慮している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーを基本とし、表札をつけたりと場所がわかるようにしている。各所できるだけ広いスペースが確保できるように家具の配置にも配慮、工夫している。手すりも設置し生活動作が安全で自立できるような環境作りを行っている。		